



©Yuki Asada

## ぬくもり感じる木の贈り物

手にしてみると、見た目も手触りも本物の栗そっくり! ミャンマーの古都バゴーから届いたのは、木材を削って作られた箸置き。バゴーには職人たちが木製の生活雑貨や食器、木彫像などを手作りする小さな工房が120軒ほどあります。

「この伝統産業に日本のものづくりの経験を加えて、世界に通用する名産品を作ろう」。そう考えたNPO法人「アジアクラフトリンク」の斎藤秀一さんが目を付けたのは、材料である天然木の端材でした。「通常の木工製品には色の濃い芯材が中心に使われ、白い部位が混じった端材は現地で薪になっていました。でも逆転の発想で、濃い部位と白い部位の天然の色合いを生かせば、ちょうど栗の形と色になると思い付いたんです」

最初は職人たちに理解してもらおうのが難しかったそうですが、根気よくイメージを共有し、次第に“栗らしく”なっていました。利用価値が低い端材を、デザインに工夫を凝らすことで、付加価値の高い商品へと生まれ変わらせたのです。

「日本が求める品質に沿った製品作りは簡単ではありませんが、私たちの活動に参加すると収入向上につながることを知り、協力してくれる工房も増えてきました。品質向上のため、2017年には技術センターも設立しました。将来的にはデザインも現地で行うことを目指しています」と語る斎藤さん。自分の手で生活を変える——。その夢に向かって、ミャンマーの職人たちが、今日も一つ一つ心を込めて商品を作り続けています。



外務省の「日本NGO連携無償資金協力」の受託事業として、技術センターでは講習会を通じた技術指導を行っている

★ミャンマーの箸置きを4人にプレゼント!  
→詳細は38ページへ

★商品は直営フェアトレードショップsaiなどで購入できます。<http://www.shop-sai.com/>

